

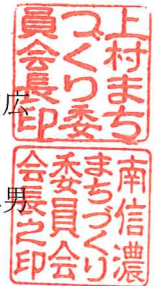
令和7年5月7日

飯田市長 佐藤 健 様
飯田市教育長 熊谷 邦千加 様

遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望

上村まちづくり委員会 会長 前島 道広

南信濃まちづくり委員会 会長 遠山 典男



日頃から、遠山郷の地域振興に格別なるご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、遠山郷2地区におきましては、人口減少や少子化をはじめ、様々な課題が山積している中で、持続可能な遠山郷であり続けるために、これまで地域と行政が協働しながら取組を行ってきております。

特に、急激な児童生徒数の減少に直面している教育に関わる分野に関しましては、上村地区の「小規模特認校制度の導入」(H30年度)や南信濃地区の「やまざと親子留学事業」(令和4年度)などの取組により、地区外からの教育移住に積極的に取り組むとともに、保護者や地域住民が、保育園から小学校、中学校までの12か年にわたる子どもを育ていく教育の目標を共有するための「遠山郷二園三校グランドデザイン」(令和5年度)を定め、魅力ある教育活動を展開してきております。

しかしながら、これらの取組により一定の成果は得られているものの、地域課題を根本的に解決するまでには至っていないことから、飯田市教育委員会が提唱する「学園構想」を前向きにとらえ、令和6年1月から「遠山郷学園会議」を設置し検討を重ねてまいりました。※検討の経過は別紙参考資料

つきましては、一年余の検討経過の中から、現状より好ましい教育環境づくりを目的に、次のとおり要望いたします。

記

1 遠山郷学園における学校の配置・枠組みについて

- (1) 現在の遠山3校の児童生徒数の現状と将来予測を考えれば、できるだけ早期に再編することが必要であることから、2つの小学校をひとつに再編する。
- (2) 再編する小学校は上村小学校の施設を活用し、中学校は現在の遠山中学校をそのまま活用する。
- (3) 再編時期は、子育て世代や地域としての不安を解消するために、できるだけ早期に再編することに鑑み、令和8年4月1日を要望する。

2 魅力ある教育活動の実現に向けた教職員の適正配置について

- (1) 飯田市独自の小中一貫教科「みらい創造科」の実現や小規模校ならではの特色ある教育活動や遠山郷の小中学校で培った地域学習を充実するためにも、国等の基準だけにとらわれず、教育力の低下や教員の負担増とならない教職員の配置を要望する。

【要望の趣旨】

[遠山郷学園における学校の配置枠組みについて]

保護者との意見交換の中で、迅速に協議を進めてほしいとの意見が多く提案されました。また、令和5年度より上村保育園・和田保育園の合同保育がスタートし、それぞれの特色ある資源を活用した自然保育が展開されておりますが、一緒に保育を受けた園児たちが、別々の小学校へ入学する状況となっており、一緒に小学校へ入学できないかとの意見もいただいています。

上村及び南信濃の両まちづくり委員会では、これらの意見を最大限に尊重し、「迅速に」かつ「子どもを真ん中において子どもたちにとってより良い学びの環境をつくること」を強く願い、2つの小学校の再編を要望します。

なお、「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針」で定められている、施設一体型、施設隣接型及び義務教育学校等の組立を早急に検討していただくことを併せて強く望みます。

[魅力ある教育活動の実現に向けた教職員の適正配置について]

小規模校においては、児童生徒数は少数ですが、授業の準備や運営など規模の大小に関わらず時間が必要となります。とりわけ、複式授業を導入している場合は時間的余裕がないことが想像されます。

過疎地域にある小規模校で実践的な授業が行われるよう、国等の基準にとらわれない教職員の配置を要望します。